Alter
安全な食べものネットワーク オルター
since1976

ほんものをたべよう A

Alter Weekly Order Catalogue

2017.8月4週号

提出日 8/ 15(火) 16(水) 17(木) 18(金)
配達日 8/ 22(火) 23(水) 24(木) 25(金)
翌々週分配達日 8/ 29(火) 30(水) 31(木) 9/1(金)

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- ○「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- ○「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- ○原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- ○プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

野菜

自給農法で農作物、ヒト、ムラを耕す

オルター助け合い村づくり構想の担い手。

(百)自給の種 里田 孝一(大阪府)

文責　西川 榮郎(NPO 安全な食べものネットワーク オルター 代表)

(百)自給の種の里田 孝一代表、まほさん(写真左より)

生態系に悪影響するモノは使用しない

オルター本社のある千早赤阪村、オルター有機農産物倉庫のある河南町を中心に活動している(百)自給の種の里田 孝一代表は、自給農法と名付けた農薬・化学肥料など、自然循環しないモノ、生態系に悪影響するようなモノは使用しない農薬不使用栽培で、ハスクトマト(ゴールデンベリー)、米、麦、大豆、玉ねぎ、じゃがいも、葉もの野菜など旬の野菜を栽培しています。

珍しいハスクトマト

オルターへは去年ハスクトマト(ゴールデンベリー)を出荷していただきました。このハスクトマトの種子は、30数年前に南米より日本へ伝わったものを、2年前に友人からもらったものです。「食用ホオズキ」の一種で、味は、甘酸っぱく「ヨーグルト」「洋ナシ」みたいとの感想が多く、女性・子どもに人気のおいしい野菜です。

地這えするので、畝に覆いかぶさってきます。発芽後の見守りは必要ですが、非常に生命力が強く草の中でも負けずによく育ちます。

楽しく畑の小学校

里田代表は鳥取県出身で、祖父は百姓でした。昨年まで介護用品の卸業の仕事をしていましたが、今年から本格的に農をテーマに仕事をしています。熱心なオルター会員である奥様まほさんの影響で、無農薬・無添加など食の安全性に目覚めました。子どもを育てる環境を考え、2012年に町から移住し、田舎暮らしを始めました。河南町にある「なんとか畑」を拠点に、子どもから大人まで楽しめるワークショップ「畑の小学校」を2013年から月1回開催しています。

「畑の小学校」では鍬・鎌などを中心に、基本的な農具の体に負担が少ない使い方、畝の作り方、種の蒔き方、発芽後のケア、土かけ、収穫、果樹の植栽、移植方法、風通しを考えた草刈り、水脈整備などの基本技術を指導しています。「田んぼフェス」、「馬耕体験ワークショップ」、「音楽イベント」などを行い、参加者＆講師みんなで持ち寄りご飯も楽しみます。

自給農法のルーツ

自給農法の提唱者は京都市右京区京北町の糸川 勉さんです。糸川氏のルーツは大阪の有機農業者の草分け、故 九門 太郎兵衛さん(河南町)です。九門さんはオルターが創設した「農事組合地産地消大阪農業者ネットワーク」の名誉組合長でもありました。

助け合い村づくり構想の農業プロジェクトの中心柱

「農事組合地産地消大阪農業者ネットワーク」の中本 勝己組合長が今年1月体調を崩され、その後継を(百)自給の種の里田代表に託されています。

この「農事組合地産地消大阪農業者ネットワーク」は本年4月に株式会社化し、さらに(株)オルターと合併しています。(百)自給の種 里田代表は、中本さんの畑も預かり、中本さんに代わって野菜の出荷にも取り組んでいます。

今年からオルターのクラインガルテンの管理、「田植え」「稲刈りイベント」などを担っていただき、オルターが千早赤阪村、河南町で進めている「助け合い村づくり構想」の農業部門で中心的な担い手としての活躍も期待されています。オルターが進めている古代小麦の栽培、増産計画にも参加していただく予定です。

仲間とオルター匠ネットワーク

また、里田さんの仲間の職人さんたち(現在5名)との協力で、オルター匠ネットワークの活動も担っていただきます。

庭仕事(植木の剪定・伐採・植栽・移植、リフォーム、草刈りなど)、水回りの仕事、建具・家具の修理、倉庫・書斎整理など、なんでも屋サービス「どれでも屋」も運営しています。

土かけ3回肥料いらず

現在、自給農法を広めるため、市川 ジャン氏が各地で「畑の小学校」を開催して、2017年には、京北本部が本格始動しています。自給農法とは自らがデザインする自給のための「エサ場」作り、生物多様性で使いやすい畑作りを目指します。慣行栽培、商業農法、有機農法、自然農法、パーマカルチャーなど全ての農法を自給という観点から見つめ直し、応用しています。

草(草マルチ、循環堆肥、地熱・湿度調整)を活用し、わざわざ堆肥場を作らず、通路・ウネ間を堆肥場として利用します。「土かけ3回肥料いらず」として、通路・ウネ間の土・草をチャーハン状態で土かけを繰り返します。

自然生態系からのメッセージを活用、旧暦(月のリズム)、季節の樹木・草、生物の活用、水脈整備による環境保全、水はけ・風通しを改善し、心地よい環境を整えます。里田さんは今年から自給農法の講師を務めています。

見習い百姓であり続けたい

里田さんがこれから目指すところは、どんな環境でも作物を育てられる技術を習得すること。自然環境を見極め、対応できる力を持つこと。自然生態系に溶け込み、自然との優しい関わりを持つこと。美味しいものを育て続け、これからも見習い百姓であり続けること、です。

地域振興の担い手

農地・山林・竹林などの土地活用、そのための短期的・長期的な人材確保、地域の学校への作物の提供など、地域振興の一端を担っていきたいと考えています。

自給の種の 自給農法の農産物 ☆☆☆

●品目

ハスクトマト(ゴールデンベリー)、おかのり、ツルムラサキ、キュウリ、トマト、インゲン、エゴマの葉、とうもろこし、ピーマン、バジル、ニンニク、イチゴ、ニンジン、大根、米、麦、大豆、玉ねぎ、じゃがいも

●防除

農薬を一切使用しません。
農薬不使用栽培。

●肥料

草を活用、通路・ウネ間の土・草をチャーハン状態で土かけを繰り返す。
中本さんの畑を引き継いでから、鶏糞(タナカファーム)を実験的に使用。

P5で、里田さんのハスクトマト(ゴールデンベリー)、きゅうり、ツルムラサキ、ミニトマトをご紹介。